

2023年3月卒者(大学・大学院卒) 「新卒者採用に関する進捗調査」 集計結果報告

公益財団法人就職支援財団が、県内企業の2023年3月卒業予定の新卒者(大学・大学院卒)採用活動の12月時点での状況について調査しました。

調査の趣旨

この調査は、静岡県内企業における新卒採用活動の現時点での進捗状況を収集し、企業・学校・学生へタイムリーに情報を展開することで、今年度の企業の採用活動、学生の就職活動への対応策提言の資料としていくものです。

調査要領

■調査対象

静岡県内企業の経営者もしくは人事担当者

従業員数: 49名以下32.3%、50～99名25.5%、100～299名23.6%、300名以上18.6%

業種: 製造業31.4%、建設業12.1%、卸売・小売業18.4%、サービス業32.7%、その他5.4%

■調査期間

2022年12月9日～2023年1月10日

■調査方法

2022年8月実施「新卒者採用に関する追加調査」の調査票送付先及び、新卒媒体やイベント等で新卒者を募集している企業から2,500社を抽出。調査依頼文を郵送し、WEBサイトにてアンケート回答

■有効回答数

462サンプル (有効回答率 18.5%)

※集計は、調査対象のプロフィール以外、非該当・不明を除いて実施。また、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、合計が100%にならない場合がある。

<調査に関する問い合わせ先>

公益財団法人 就職支援財団

担当: 鈴木

TEL 054-271-3111

【総括】	3P
【調査結果】	
Ⅰ. 2023年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動実施状況	4P
Ⅱ. 採用活動終了企業の活動実績	5P
Ⅲ. 選考プロセスにおける状況の前年度比較	5-6P
Ⅳ. 2023年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動総括	7P
Ⅴ. インターンシップの実施状況	8-9P
Ⅵ. 次年度の新卒採用活動	9P

＜今年度採用活動の概況＞

全般的に採用環境は厳しさを増しているが、採用活動を終了した企業と継続している企業に2極化傾向が見られる。

- ①8月の調査に引き続き、採用活動を継続している企業の割合は増加している(図表1、2)。
- ②採用プロセスにおいては、応募者数の減少傾向が顕著になってきている(図表7)。応募者数全体の減少割合と、県外学生からの応募者数の減少割合が同程度となっていることから(図表9)、県外学生の採用が上手くいっていないことの影響が大きいと考えられる。
- ③採用を継続している企業のうち、計画人数の充足を見込んでいる企業は1割にとどまっている(図表4)。一方、採用活動を終了した企業で計画人数を充足した企業は約6割と前年を上回っていることから、採用状況に2極化傾向が見られる(図表6)。
- ④コロナ禍においても比較的意欲的に活動していた「卸売・小売業」は、他業種よりも厳しい状況にある(図表13、15、18)。他業種が採用活動を活発化したことによる影響がでているのではないかと考えられる。
- ⑤これまで増加傾向にあった選考におけるオンラインの活用が、減少に転じた(図表19)。

＜インターンシップの概況＞

昨年に引き続き実施率が減少。一方で実施企業は実施回数を増やすなど2極化傾向は続いている。

- ①実施率は、2017年の調査以来5割を下回った前年の数値をさらに2ポイント下回った(図表20)。
- ②一方、インターンシップに参加した学生数が「増えた」企業の割合は、「減った」企業よりも多くなった(図表21)。今年度12月～2月にインターンシップの実施を予定している企業では、実施回数を増やす企業の割合が前年を上回る割合となっている(図表24)。前年同様、全体の実施率が低下している中、実施企業の積極度は増しており、2極化傾向は続いている。
- ③インターンシップ実施企業のうち、今年度内定を出した学生の中に自社のインターンシップに参加している学生の割合は55%で増加傾向が続いている(図表23)。夏にインターンシップを実施した7割以上の企業が、インターンシップ後に参加学生と接触している(図表22)状況からも、インターンシップと採用との連動は強化されているようだ。

＜次年度の新卒採用活動について＞

今年度よりも厳しい状況になることが予想される。インターンシップの定義が見直される状況において、変化を捉えて早めに対応することが重要になりそうだ。

次年度の採用状況については、7割弱の企業が「厳しなりそう」と考えている(図表27)。今年度も厳しい状況だと感じている企業は増加している(図表17)が、県外学生の獲得が減少していることが大きな要因となっていると考える。県外学生の獲得は重要な課題のひとつであるが、前年の調査(※1)において抱いていた不安が現実になりつつあるのだろうか。

※1今回の調査に見られる今後の活動見込みから、2つの不安要素が挙げられる。インターンシップの実施率の低下とオンライン活用率の頭打ち(図表29、30)である。インターンシップが採用に与える影響は1～2年後に現れるため、1～2年後にどのような状態にあるのだろうか。コロナが落ち着き対面重視の活動に切り替えた場合に、オンラインの継続なくして県外学生にアプローチができるのか。

また、次年度よりインターンシップの定義が見直される。実施日数5日以上など実施条件を満たさない取組みは、インターンシップという名称が使用できなくなる。どのような影響がでるかまだわからないが、他地域や他業界等の状況にアンテナをはって最新情報を把握し、対応が遅れないようにしたい。

採用スケジュールの変更やインターンシップの取り扱いの変更など、大きな変化がおきる時には、いかに早く対応するかが重要となる。これまでは地方企業の対応の遅れにより、大きな変更がある度に対応の早い企業(特に首都圏企業)に学生が流れていった。今回の変化を大きなチャンスと考え、スピーディーに様々な取組みに挑戦すべきではないだろうか。

※総括及び調査結果のTOPICSのコメントにある“前年”とは、“前年同時期”の調査となります。

【調査結果】

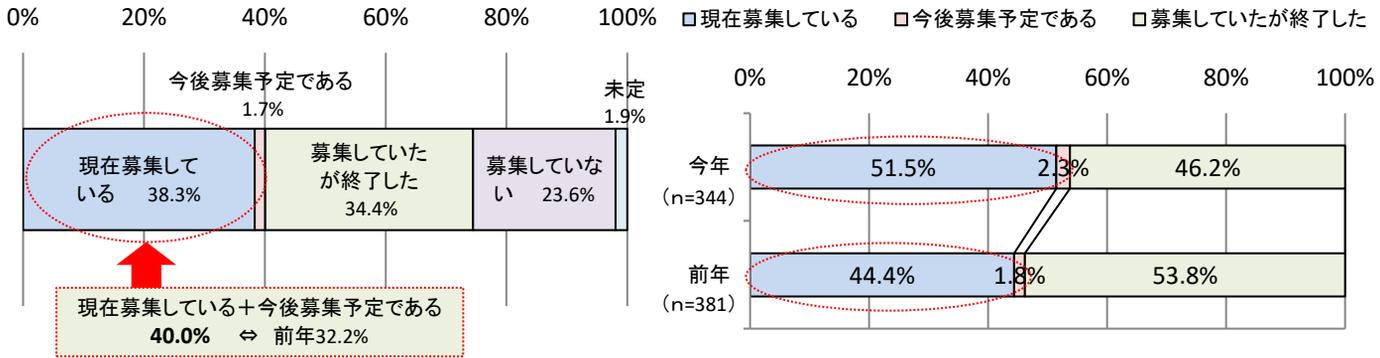
I. 2023年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動実施状況

<TOPICS>

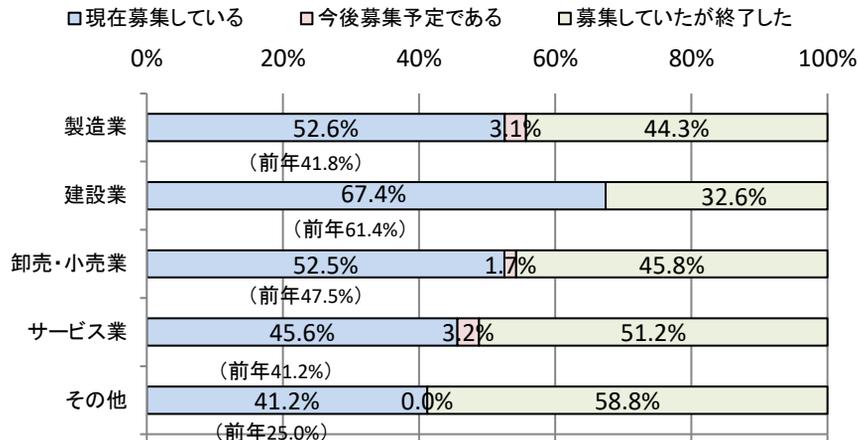
- 採用活動を継続している、あるいは募集予定のある企業は全体の40%と前年を8ポイント上回っている(図表1)。採用意向のある企業に絞ると、54%の企業が採用活動を継続している(図表2)。全ての業種において活動の継続率が高くなっている(図表3)。
- 採用活動を継続している企業で採用計画の充足を見込んでいるのは、全体の10%となっている(図表4)。

(図表1) 2023年3月卒者の採用募集状況(n=462)

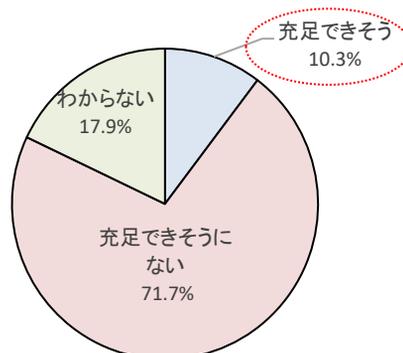
(図表2) 採用意向のある企業の活動継続率



(図表3) 業種別: 採用意向のある企業の活動継続率



(図表4) 採用を継続している企業の新卒採用計画充足見込(n=184)



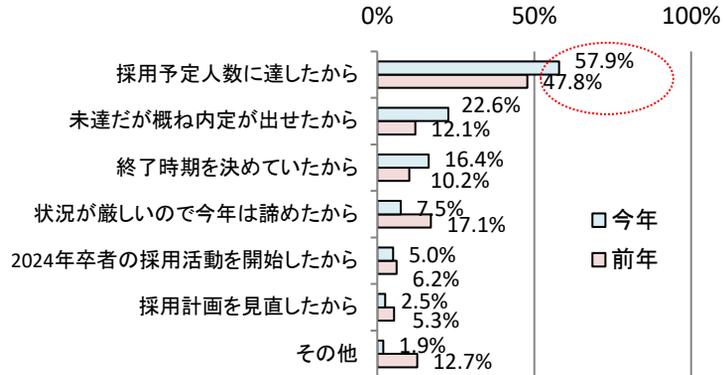
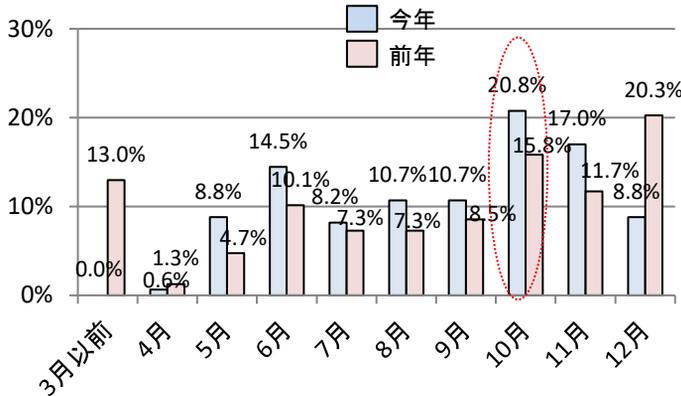
II. 採用活動終了企業の活動実績

<TOPICS>

- 採用活動の終了時期は「10月」が最も多く、2番目が「11月」、3番目が「6月」となっている。「3月以前」に終了した企業は1社もなく、前年を13ポイント下回っている。(図表5)。
- 採用活動を終了した理由は、「採用予定人数に達したから」が58%と最も多く、前年を10ポイント上回っている。2番目に多いのは「未達だが概ね内定が出せたから」で前年を11ポイントを上回っている(図表6)。

(図表5) 採用活動を終了した時期(今年n=159、前年n=316)

(図表6) 採用活動を終了した理由(n=159、複数回答)



III. 選考プロセスにおける状況の前年度比較

<TOPICS>

- 応募者数は「前年と変わらない」企業の割合が41%と最も多いが、「前年よりも増加した」企業の割合は18%で、前年より半減している。「前年より減少した」企業は41%で前年よりも19ポイント増加している(図表7)。従業員50人以上の企業においては「前年よりも減少した」企業の割合が最も高くなっている(図表8)。
- 県外学生の応募者数が「前年よりも減少した」企業の割合は31%で、前年数値を16ポイント上回っている(図表9)。全て従業員規模において「前年よりも減少した」企業の割合が「前年よりも増加した」企業の割合よりも高くなっている(図表10)。
- 内定辞退のあった企業は58%で前年と同程度の数値となっている(図表11)。
- 前年度と比較した内定辞退者数は「変わらない」企業が62%と最も多く、前年調査を7ポイント上回っている。「前年よりも増加した」企業の割合は31%で、前年よりも8ポイント上回っている(図表12)。業種別では「卸売・小売業」が「前年よりも増加した」企業の割合が4割超ともっとも高くなっている(図表13)。
- 内定式を実施した企業で内定式後に内定辞退のあった企業の割合は13%となっている(図表14)。業種別では「卸売・小売業」が辞退のあった割合がもっとも高く、26%となっている(図表15)。

(図表7) 応募者数の前年度との比較

(図表8) 従業員規模別: 応募者数の前年度との比較

□前年よりも増加した □前年と変わらない □前年よりも減少した

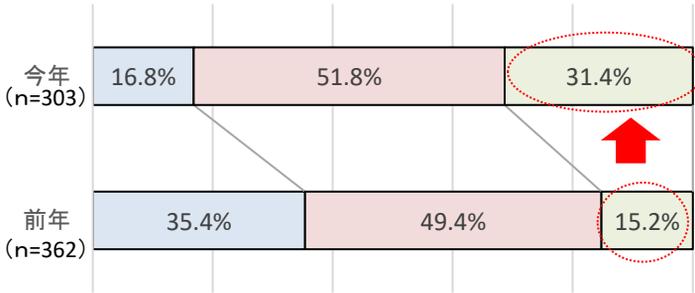
0% 20% 40% 60% 80% 100%



	前年よりも増加した	前年と変わらない	前年よりも減少した
49人以下	17.3%	45.2%	37.5%
50~99人	17.6%	38.8%	43.5%
100~299人	22.2%	36.1%	41.7%
300人以上	15.1%	41.5%	43.4%

(図表9) 県外学生の応募者数の前年度との比較

□前年よりも増加した □前年と変わらない □前年よりも減少した
0% 20% 40% 60% 80% 100%

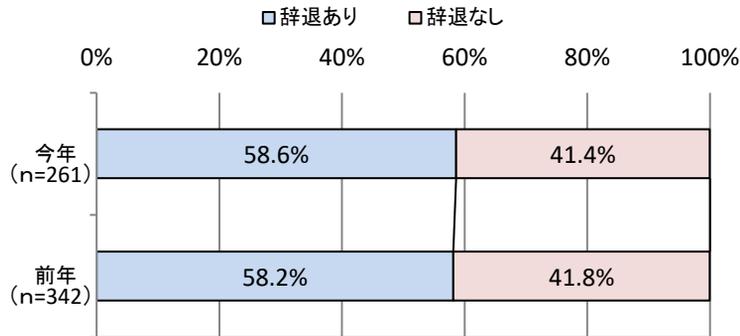


(図表10) 従業員規模別:

県外学生の応募者数の前年度との比較

	増加した	変わらない	減少した
49人以下	18.0	50.0	32.0
50~99人	17.4	55.8	26.7
100~299人	15.7	51.4	32.9
300人以上	14.9	48.9	36.2

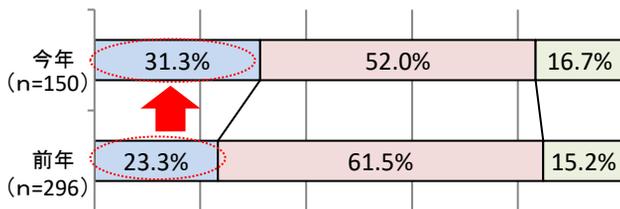
(図表11) 内定辞退の有無の前年度との比較



(図表12) 内定辞退者数の前年度との比較

□前年よりも増加した □前年と変わらない □前年よりも減少した

0% 20% 40% 60% 80% 100%

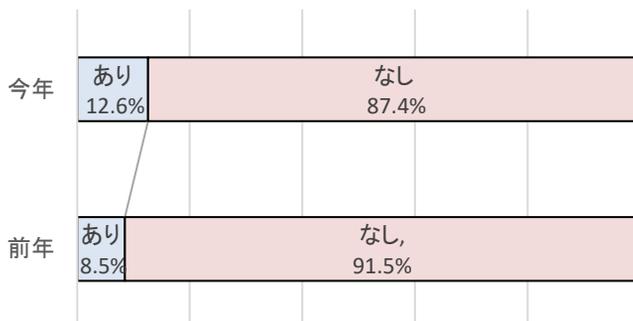


(図表13) 業種別: 内定辞退者数の前年度との比較

	前年よりも増加した	前年と変わらない	前年よりも減少した
製造業	25.7%	51.4%	22.9%
建設業	28.6%	64.3%	7.1%
卸売・小売業	42.9%	46.4%	10.7%
サービス業	25.4%	55.6%	19.0%
その他	60.0%	30.0%	10.0%

(図表14) 内定式実施企業における
内定式後の内定辞退の有無 (n=111)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



(図表15) 業種別: 内定式実施企業における
内定式後の内定辞退の有無

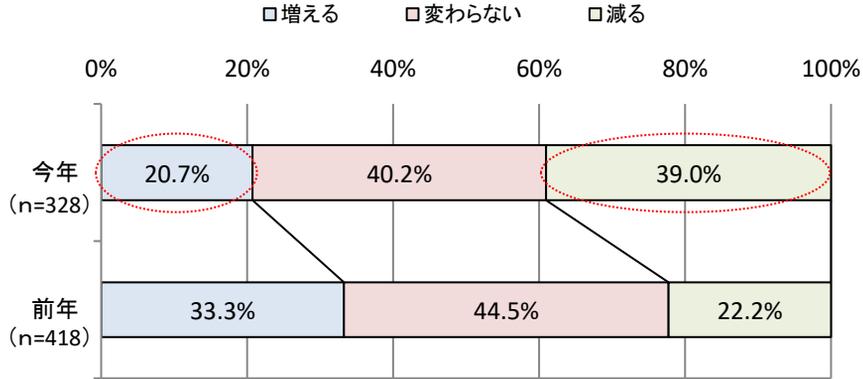
	あり	なし
製造業	4.0	96.0
建設業	11.1	88.9
卸売業・小売業	26.3	73.7
サービス業	14.0	86.0
その他	0.0	100.0

IV. 2023年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動総括

<TOPICS>

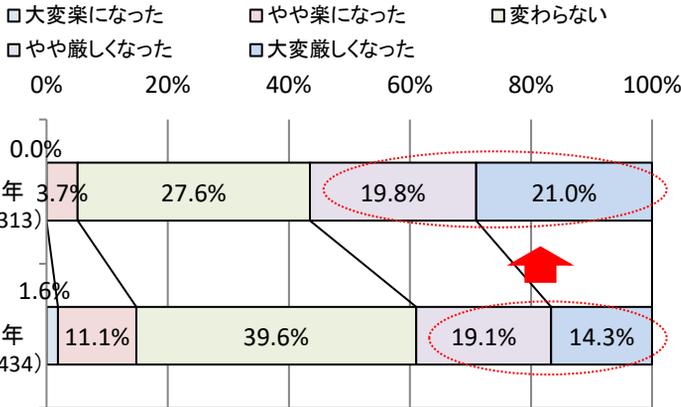
- ・前年よりも採用人数が「減る」と回答した企業が、「増える」と回答した企業を18ポイント上回っている(図表16)。
- ・今年度の新卒採用活動の印象を「やや厳しくなった」「大変厳しくなった」とした企業の割合は41%で、前年を8ポイント上回っている(図表17)。業種別で見ると「卸売・小売業」は「大変厳しくなった」と感じている企業の割合が4割弱と最も多くなっている(図表18)。
- ・オンラインの活用は、「説明会・面接において活用」が36%と最も多い。オンラインの活用企業の割合は、全体の60%で前年を4ポイント下回っている(図表19)。

(図表16)前年と比較した新卒採用人数



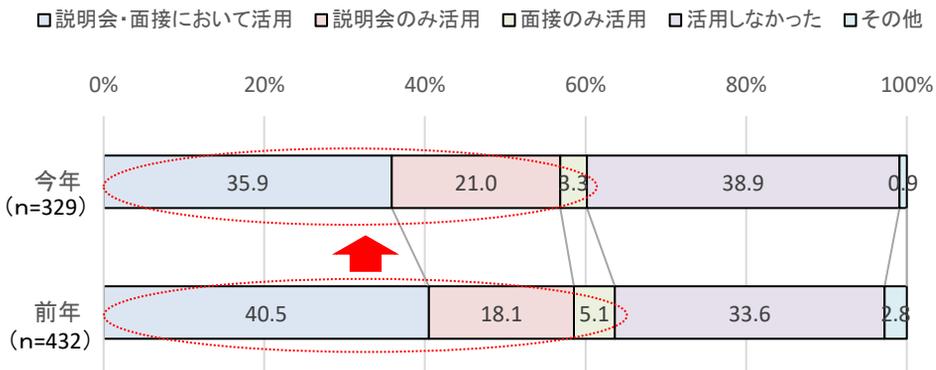
(図表17)当年度の新卒採用活動の印象

(図表18)業種別：当年度の新卒採用活動の印象



	大変楽になった	やや楽になった	変わらない	やや厳しくなった	大変厳しくなった
製造業	0.0	3.6	41.0	25.3	30.1
建設業	0.0	11.1	44.4	22.2	22.2
卸売・小売業	0.0	1.8	31.6	28.1	38.6
サービス業	0.0	6.3	34.8	30.4	28.6
その他	0.0	0.0	56.3	31.3	12.5

(図表19)オンラインの活用状況

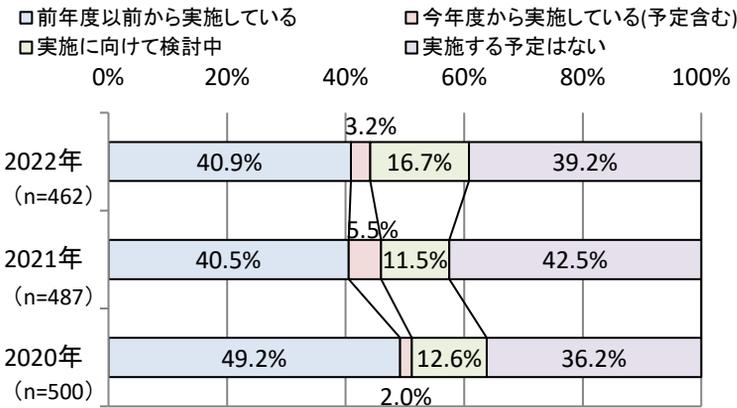


IV. インターンシップの実施状況

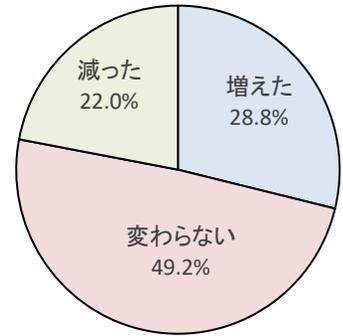
<TOPICS>

- ・インターンシップの実施率は44%で、前年を2ポイント下回っている(図表20)。
- ・インターンシップ参加学生数は「増えた」企業の割合が「減った」企業の割合を7ポイント上回っている(図表21)。
- ・夏のインターンシップに参加した学生との接触状況については、「選考の案内をした」企業が41%ともっとも多い。「とくに接触していない」企業の割合は26%となっている(図表22)。
- ・インターンシップ実施企業において、今年度の内定者の中にインターンシップ参加者がいる割合は55%で前年を7ポイント上回っている(図表23)。
- ・今年度12月～2月のインターンシップの実施回数は、「前年と同程度」としている企業が68%と最も多い(図表24)。
- ・今年度12月～2月のインターンシップの実施手段は、「対面で実施」すると回答した企業が54%と最も多く、前年数値を10ポイント上回っている(図表25)。

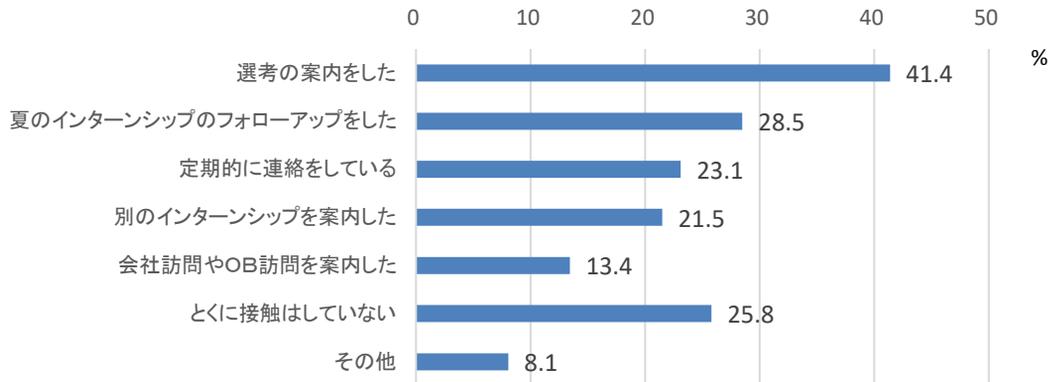
(図表20) インターンシップの実施状況



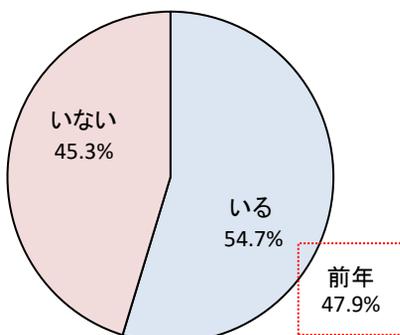
(図表21) インターンシップ参加学生数の前年比較(n=177)



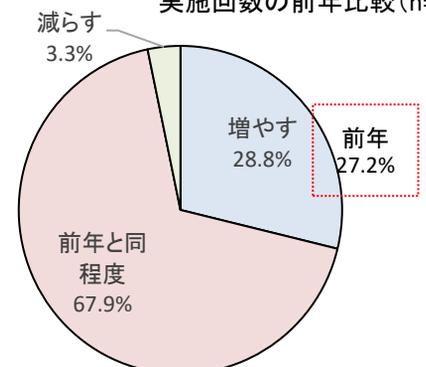
(図表22) 夏のインターンシップに参加した学生との接触状況(n=186、複数回答)



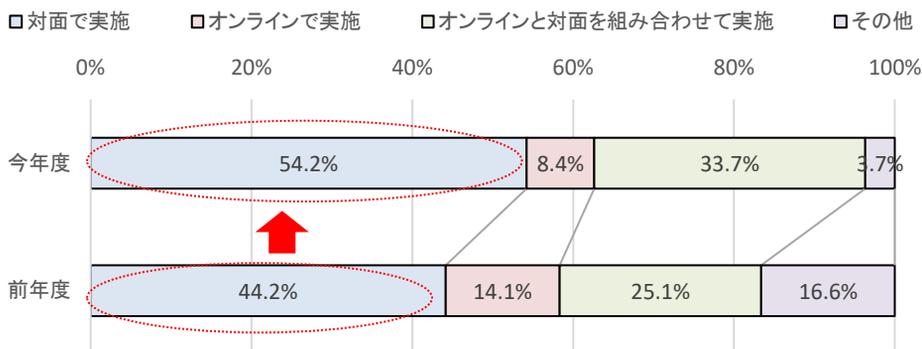
(図表23) インターンシップ実施企業での内定者におけるインターンシップ参加者の有無(n=179)



(図表24) 今年度12月～2月に実施するインターンシップの実施回数の前年比較(n=184)



(図表25)今年度12月～2月に実施するインターンシップの実施手段(n=190)

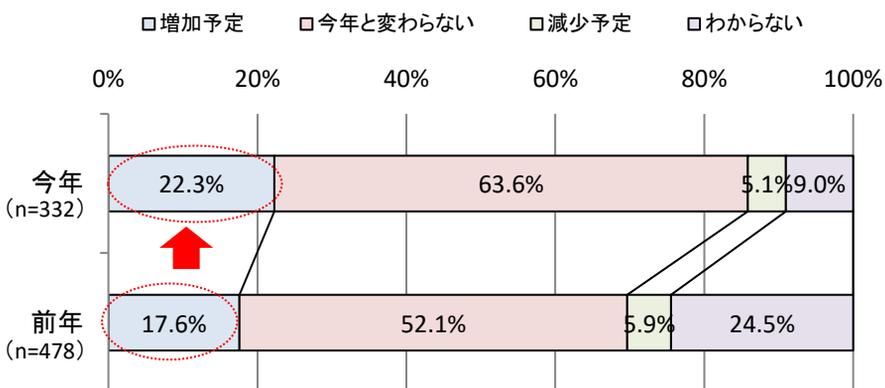


V. 次年度の新卒採用活動

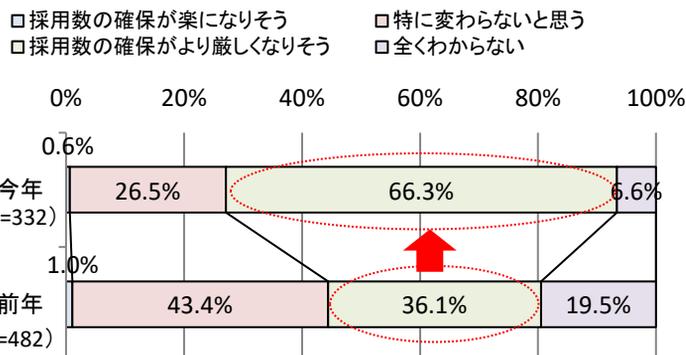
<TOPICS>

- ・次年度の採用予定人数は、「今年と変わらない」が64%と最も多い。前年調査と比較すると、「増加予定」の企業の割合が5ポイント増加している(図表26)。
- ・次年度の採用活動状況の見通しは、66%の企業が「採用数の確保が厳しくなりそう」と回答しており、前年調査を30ポイント上回っている(図表27)。従業員規模別にみると、従業員「300人以上」の企業では「採用数の確保が厳しくなりそう」とした企業が8割を超えている(図表28)。

(図表26)次年度の新卒採用予定人数



(図表27)次年度の採用活動状況の見通し



(図表28)従業員規模別:次年度の採用活動状況の見通し

	採用人数の確保が楽になりそう	特に変わらないと思う	採用数の確保が厳しくなりそう	全くわからない
49人以下	0.0	38.8	50.0	11.3
50～99人	0.0	23.8	68.8	7.5
100～299人	2.1	27.7	66.0	4.3
300人以上	0.0	15.4	80.8	3.8